



# 修二だより

平成28年度11月 特別号

京都市立修学院第二小学校

校長 川口 正二

TEL. 075(781)5400

FAX. 075(791)5400



HP <http://www.edu.city.kvoto.jp/hp/svugakuindai2-s/>

## 平成28年度全国学力学習状況調査の結果

4月19日に、本校6年生52名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

### 総合結果（国語・算数）

国語算数共に国、府と比べると平均得点は、A(主として知識)は、ほぼ同様の結果で、B(主として活用)ではやや上回る結果でした。国語、算数ともに時間配分を考えて問題に取り組めば、最後の方の問題の正答率も上がったと思われます。今年度は算数科目で図や式を用いて説明する力を伸ばす取組をしています。その成果が算数だけでなく全教科で表れるよう授業改善を進めています。

### 国語科より

国語A(主として知識)では、漢字の読み書きなど言語面では正答率も高く定着しています。ローマ字は3年生で学習した後、使う機会が少なく「あさって」などの促音を表記する問題の正答率が低かったです。国語B(主に活用)では文章の叙述をもとに問題の意図を条件に合わせて書く問題の正答率が低かったです。これは「書くこと」以前に文章や資料の読み取り、要旨、キーワードを見つける経験が少ないことに起因すると考えられます。漢字などの基礎学習と並行して読み取り問題を昼学習などで取り組んでいきます。



### 算数科より

算数A(主に知識)では約80%の平均正答率でした。概ね基礎的な知識は定着しています。小数の除法の計算( $18 \div 0.9$ )の正答率が低く復習する必要があります。また、単位量当たりの大きさを求める問題も正答率が低く無解答も多かったです。算数B(主に活用)では示された式の中の数値の意味を理解し、その説明を記述する問題の正答率が低く無解答も多かったです。自分の考えを図や式を用いて言葉で説明する力をつけるよう授業の中で取り組んでいきます。

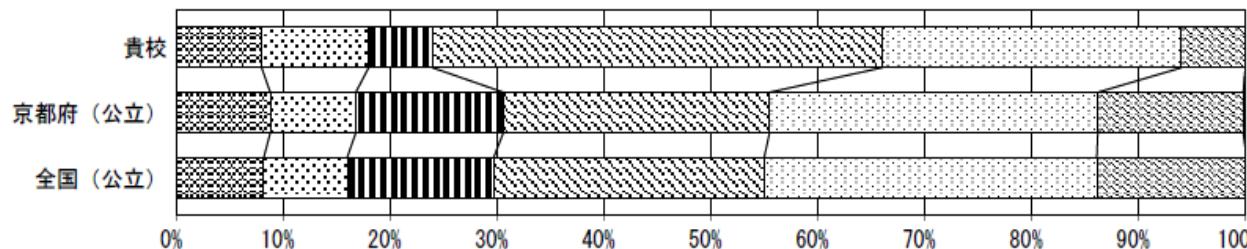


### 児童質問紙調査から①

設問 (12) 普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲームやスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

1日のゲームをする時間ですが、1時間以上している児童が全体の66%あり、全国、府の割合いを上回っています。設問(14)の家庭学習の時間が1時間未満の児童が36%いることも含め家庭での過ごし方について家庭と学校が連携して一考する必要があると考えられます。

- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 4時間以上 | <input type="checkbox"/> 2. 3時間以上、4時間より少ない   | <input type="checkbox"/> 3. 2時間以上、3時間より少ない | <input type="checkbox"/> 4. 1時間以上、2時間より少ない |
| <input type="checkbox"/> 5. 1時間より少ない         | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 全くしない | <input checked="" type="checkbox"/> その他    | <input type="checkbox"/> 無回答               |

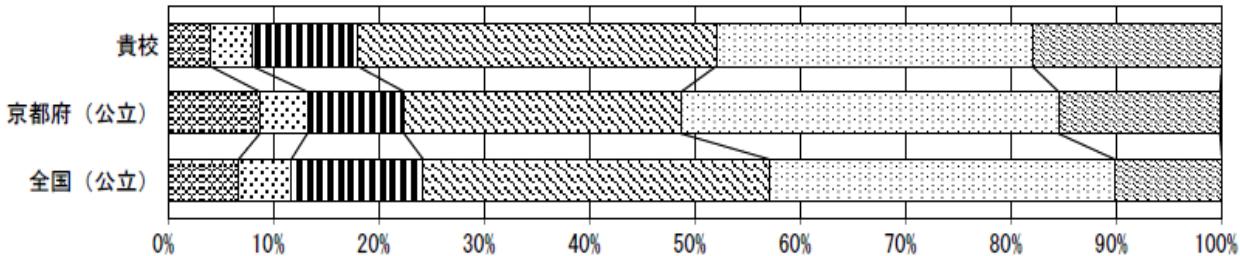


## 児童質問紙調査から②

設問 (15) 土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日どれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

土日の家庭学習の時間ですが、全くしない児童が全体の18%，2時間以下の児童が全体の82%で全国より下回っています。日頃、習い事などで忙しい子どもたちですが、土日の1日でも集中して学習する習慣をつけていってほしいと願っています。

■ 1. 4時間以上 ■ 2. 3時間以上、4時間より少ない ■ 3. 2時間以上、3時間より少ない ■ 4. 1時間以上、2時間より少ない  
■ 5. 1時間より少ない ■ 6. 全くしない ■ その他 ■ 無回答



## 本校の成果と課題

本校では、昼の余暇時間を利用して、算数の計算問題や既習事項の復習に取り組んでいます。その成果として、算数科では計算問題や基礎基本の問題の正答率が高かったと考えられます。しかし、問題文が長く、読み取ることが難しい問題では、正答率が下がります。問題場面を理解したり、問題に書かれていることを、図と合わせて読み取ったりすることが難しいようです。これまでも、自分の考えを図や式を活用しながら表現する力がつけられるよう授業の工夫を行っていますが、引き続き授業改善を進めていきたいと思います。また、生活のいろいろな場面に算数が活用できることを実感し、算数を楽しいと思える子どもを育てていきたいと考えています。

国語科では、長文を読み取ったり、文章の種類や構成に気付く力についていく必要があります。低学年のうちから、物語文では登場人物や起承転結を意識したり、説明文では段落に書かれている内容と図や挿絵を対応させながら読むことを意識したりすることが必要だと考えています。また、学校図書館を活用し、読書活動を進め、読書に親しめるようにします。

また、児童質問紙での児童の解答では、各教科への関心や生活習慣では、どの項目も平均以上の結果が見られたのですが、自尊感情と規範意識の項目で、平均を下回っていました。自分の考えたことに自信が持てず、授業で活発な意見の交流をはかることができにくいという実態が見えます。授業の中で「同じ考えです。」「少し違います。」などのハンドサインで意思表示をしたり、グループでの話し合い活動の場を設定したりしながら、一人一人の考えを生かす学習活動を取り入れた授業の工夫をしていきたいと思います。

## 保護者の皆様

全国学力調査は、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決するためのものです。学力は、毎日の学びの地道な積み重ねにより定着していくものです。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境作りにご協力いただきますよう、お願ひいたします。